

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101919		
法人名	医療法人近藤医院		
事業所名	近藤医院グループホーム		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町日並郷1325番地8		
自己評価作成日	平成21年10月14日	評価結果市町村受理日	平成21年12月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事の時の入居者も含めた食事作り、病院と併設しているので、医療を必要としている人の入所を一番に考えている。又、ホーム理念として「声かけ、目配り、気配り、心配り、言葉かけ」をモットーに活動している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「医療と福祉で地域貢献」を目指されている法人代表の意思がグループホームの運営にも反映されており、「医療と介護を融合させた安心」につながるサービスの提供に努められている。居住サービスの中の医療ということもあり、連絡時の基準や手順を設けられ、職員もそのことを周知されている。更に、今年は現場業務の振り返りを通じた業務改善策として主任職の登用及び新任者を配置し、業務の見直しを全職員で取り組み検討され、サービスの質の向上を目指されている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念として「目配り、気配り、心配り、言葉かけ」をモットーに活動しているが、地域での行事にも出来る限り参加をしている。今後も老人会や自治会の行事には参加をしていきたい。パンフレットにも理念を入れていて、自治会や老人会に配布している。	法人グループの最終成果は「地域に根ざした医療と福祉の提供」である。管理者と現場職員の「医療と福祉の混在したサービス提供」と入居者・家族の「医療面での安心ニーズ」のバランスの取れた実践に努められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には中々交流が少ないが行事等があったりする時は、声掛けをして頂く様になっている。	母体施設である「医療法人 近藤医院」は地域に馴染みの名称ではあるが、併設施設であるグループホームの存在は、1年をかけた地道な営業活動の結果徐々に認知されている。現在、日常的な交流不足を実感されており、当面の課題でもある。	自治会等と積極的に関わりをもって、地域の能力、事業所の能力を融合させた取り組みに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなかまだ活かされていないので、今後は地域の人々や老人会等に向けて認知症の理解をして頂ける様に、自治会等への会議にも積極的に参加していきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回(3月・7月・9月・11月)行っているが、その会議の席で経過報告や改善の取組みについて、指導・助言を頂いていて、職員全員でサービスの向上につなげている。	基本的に3ヵ月毎の奇数月の第三土曜日に開催されているが、パターン化した議題に行き詰まりを覚えられている。	運営推進会議の目的を検討し、議題・内容の見直しに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所として市町村介護保険課、高齢者支援課等にも積極的に顔を出し、又包括支援センターとも事業所の現況報告やケアサービスについて相談や助言を頂いている。	町の担当者から、福祉に関する情報も積極的に聴取されている。また、町に設置されていない介護相談員の取り組みなど気づきを通じた要望・提案もだされており、町政と協働した取り組みを目指されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルも作成していて、身体拘束排除理念も事業所に掲示している。職員間で認識を固めていて、拘束をしないケアに取り組んでいる。夜間施錠は、玄関のみ行っている。	身体拘束に関するマニュアル等の作成や掲示などの取り組みはされているが、更なる取り組みとしての業務の振り返りや意識付けにつながる定期的研修の不足は否めない。	「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解すると共に、業務の振り返りに反映させた定期的な研修の取り組みに期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルも作成していて、利用者の状態の把握に職員が共通認識を持ち日々活動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では、必要性がない為、行っていない。成年後見制度等について必要な場合は、施設長の方で対応をし、社協や役場等に話を持って行く様にしているが、職員には、中々理解されていない事が多い。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に運営規程、利用契約書、重要事項説明書を説明し、読んでもらい、質問等にもその都度対応し理解を得る様にしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付を設置しその都度対応出来る体制を採っているが、申請の方は中々上がっていない。家族のアンケート等を作り、何でも言って頂く様に雰囲気作りに留意し、意見、苦情等は、ミーティングで話し合い反映させている。	事業所独自のアンケート調査をされているが、回収後の集計・分析・結果報告の取り組みまでに至っていない。	アンケート調査結果のフィードバックにつながる取り組みに期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の先生等を入れてのミーティング(カンファレンスも含む)、又2ヶ月に1回の管理者会議に代表者も出席されるのでその折話をしている。又緊急の時はその都度話をしている。	事業所全体の業務改善検討の結果、業務体制に主任職を設置し、業務のマンネリ化に新風を入れる目的で新任を起用されている。これまで管理者の目の届かなかった業務の補佐役として、現場職員と管理者のパイプ役として、職員間の意思の疎通を目指した職場環境づくりに努められている。	「報告・連絡・相談」の取り組みに期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に一回見直しや資格取得に対し評価をして時給や手当を出している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外及び事業所内の研修いは、多くの職員が受講出来る様にしているが中々時間の都合等で受講出来ない事が多いので、少しでも向上が出来る様に機会作りをしていきたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時津長と地区認知症連絡協議会へ加入していて、長与地区のケア会議や時津地区のケアマネ連絡協議会にも参加しているが、職員が参加出来る様な体制作りも今後は検討して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に相談からアセスメントへ移行しているのもその時に応じて対応、本人が困っている事などスタッフ一人一人が声をかけを少しでも家族・本人が安心して暮らして行ける様対応を心がける。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に相談、施設長、主任に話をしその時に応じ対応をする。家族が面会に来られた時困った事柄、要望など聞きながら家族・本人が安心して又来所して頂ける様に対応を心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を良く聞き施設長、主任に報告し、必要であれば他職、ケアマネにも相談している。現在1名の方が併設のデイケアを利用されていることもあり、他の利用も含めた対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしながら必要以外の場合は、なるべく家族のような付き合いを心がけている。特に本人の思い、苦しみ、不安、喜びなどを知る事に努め共に支え合える関係作りに努める。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活を大切にしながら、家族にも様子を見て頂き、誕生会、敬老会、秋祭り等にも声をかけ家族参加型のクリスマス会等を行っている。又、外出、外泊など家族一緒に過ごせるように努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	スタッフは明るく楽しい雰囲気作りを心がけ会話の中でも尊敬の念をもち、常に笑顔で接する事を心がけている。又、秋祭り、クリスマス、誕生会等家族の方にも連絡し参加して頂く様に努めている。	家族等に行事参加の誘いはされているが、足を運んでいただくまでには至っていない。家族と入居者が連れ立って外出されたり、行きつけの美容室の利用など継続した関わり支援をされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時、15時リビングにて体操、おやつレクリエーション等を実施している。特にゲーム、歌を唄うことにより入居者同士の良い関係がもてるよう努めている。又、廊下に長椅子を設置し、入居者同士のコミュニケーションが出来るよう努めている。現在徐々にできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では、何もしていないが、外で逢った時は、気軽に話せる関係にある。又、会話の中で行事に誘ったりしている。今後は、案内状等も出して行く様にしたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームで安心して暮らしたいという希望を持っているので一人一人と多くの会話をもち意向を聞く様にしている。まずは、声掛けを行い良い方法を検討して、ケアマネジメントをしていきたい。	しきたりに準じた取り組みで、新年の抱負を聴取されており、たよりに顔写真つきで掲載されている。何気ない一言に入居者の駆け引きのない本音・意向が窺い知れる取り組みである。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い頃の歌や童謡をレクリエーションに数多く取り入れ歌ったり暮らしの状況などを聞ける雰囲気作りに努める。アルバムを観せて頂いた時や御家族からの聞き取りが出来るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルに注意し職員間の情報連絡を密にすることにより心身の状態の把握に努めている。又、個人記録、日誌に細かく残す事により生活リズムの把握に努める。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	先ず本人・家族に聞き取り調査をし、アセスメントを作成しフェースシート作成を行う。介護計画書を作成し、月2回医師を入れカンファレンス等を行っている。又、月1回モニタリングを行い、評価している。	介護計画書作成までの一連の流れをケアマネジャーが主流となって携わっており、個別記録も生活記録が大半を占めている。職員に対しての介護計画の浸透や入居者の現状に即した計画作成につながる取り組みに不足がある。	個別記録の目的・あり方を検討され、全職員による介護計画作成やモニタリングの実践につながる取り組みに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日常生活及び身体状況等、日々の暮らしの様子や本人の言葉や、気づきを取り入れどう対処したかを記入するよう職員全員が確認出来るようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外泊、訪問等、本人や家族の状況に応じて要望に柔軟に対応している。又、本人・家族の状況に合わせて通院・送迎等必要な支援は出来るだけ対応している。個々の満足度を高める努力はしている。又、デイケアにも1名参加させていて、リハビリも6人中5人が受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会や自治会等と意見交換をしていて、ホーム管轄の久留里交番所に出向き当ホームのパンフレット等を持参し、近隣の小学校等にもホームの事を宣伝している。社協・役場にも顔を出し協力依頼をして行きたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院が主治医である為緊急時など迅速な対応がなされ安心である、又、週3回～4回主治医の診察があり医療に対してのあ、早期発見も可能である。診察科目にはない医院については、スタッフ同行にて通院支援している。	医療と介護が融合した事業所を目指されており、入居者・家族にも安心を提供できるよう、入居者の変化時や緊急時に備えた連絡時の基準・手順を設けられており、職員にも周知されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院に24時間ナースが職務している為、緊急時の対応がすぐに出来る。日々のバイタル測定など状態報告を常に行なっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院が主治医である為連携協力がなされている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設病院が主治医である為連携協力がなされている。	契約時、入居者や家族から看取り等について要望があれば、“看取りに関する指針”を提示・説明し同意を得られている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常時の対応表を作成している。異常があった場合には看護師等に報告し医師との連携を取っているが、直接医師に報告する場合もある。応急手当の研修は中々出来ていないので年に一回程度は研修を行なって行きたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成していて、年2回(4月、11月)の避難訓練等を夜間を想定しての訓練を行なっている。近隣の住民や自治会長にも話しをしている。又、ちょっとした非常用備品等も設置を解る場所に行っている。	避難訓練開催に当たっては、自治会の方の積極的な参加希望があり、実際に参加、協力されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関し書類などは、事務室に保管している。言葉の掛け方には十分注意を払い人生の先輩として尊敬の念を忘れない様心配りをしたい。	嗜好品の過度の摂取を希望する時などは、健康等に留意した許容範囲内の量を提供された後、ストックがないことを告げるなど工夫されているが、少しでも本人の意向を満たすような取り組みに努められている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人に合わせ、説明・納得してもらった上で自己決定を表に出せるように支援を行う。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一日の流れの中、午前、午後と楽しい曲で体を動かされているが、当日の体調、精神面を尊重、不参加されることもあるが、柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや、おしゃれは、長年の個人の生活習慣でもあり、無理に援助を押し付けることなく、家族との協力のもとに理美容院で希望にあわせカットやパーマをして貰える様に連携している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフ1名が検食として必ず同じテーブルにつき食事をしている。音楽を聴きながらの食事ですがとても静かで余り会話がなされず、入居者様ももっと会話をなさる様な工夫が必要と思われる。	法人グループの厨房で調理されたものが主流の食事提供であるが、おはぎやイナリ寿司など器具を使わないでもできるものに関しては入居者と職員が協同して作られているが、食事に関する一連の関わりが希薄である。	せめて昼食だけは入居者と出勤している職員が同じ条件で過ごせる貴重な時間であるので、同じ食卓に着いて会話や食事を楽しまれる取り組みが期待される。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は病院と併設の為、デイケア食と一緒に作ってもらっている。食事時、おやつ時に水分を十分摂って頂く様又は好みに応じられるよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ずつ声かけし、見守り、介助にて行っている。週一回は義歯をポリデントにつけ消毒殺菌している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様殆どが自立されているが歩行にふらつきがある方は付添い、見守り誘導を行っている。夜間はP-WCなど居室に設置し、排泄して頂く方もいる。排便の確認は表を作成し排便チェックをしその都度内服薬などで対応調整している。	排泄の自立支援の一環として夜間のポータブルトイレ使用の頻度が軽減している入居者に対しては、排泄パターンの把握を通した早めの声かけ誘導と入居者の希望を踏まえた様子観察で、居室からポータブルトイレを排除する方向で検討されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をし、軽めの運動や歩行運動を励行している。併設医院の主治医の指示で3～4日排便無い時は内服薬等にて対応している。又、厨房にも工夫を御願している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	火木土と週3回を決めているが体調に合せ次の日になる事もある。入浴困難の場合は、清拭にて対応している。浴室が手狭の為、医院の大浴場を借りる事もある。	現入居者に入浴拒否される方はおらず、入浴を楽しみにされている人が殆どである。また、5月の菖蒲湯や冬至の柚子湯など季節の行事も入浴支援に取り入れられている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体操・レクリエーションなどに参加して頂き体を動かす様に促しながら体調管理、希望を考慮し、又、併設医院の主治医に相談をし薬などを服用する時もある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを利用者ごとに整理し一人一人の使用している薬の目的や副作用など確認を行っている。投薬時、本人の薬を確認し手渡し見守り投薬して頂き誤薬防止にも取り組んでいる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の興味・得意分野を把握し、囲碁や塗り絵、屑入れ用折箱作成など、又職員が借りて来た紙芝居などを読み聞かせたり、洗濯物たたみを手伝ってもらい役割を担って頂いている(月1回～2回外出を行う様に心がけている。)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある場合には、出来る限り外出をさせたりしているが、天候、本人の気分や希望に応じて気分転換も兼ねて近場の散歩や買物、ドライブへ、お弁当を持って戸外にも外出したりしている。又普段いけない所にも職員間の勤務体制を調整しながら対応する様にしている。又個々に対応も今後は検討が必要と思います。	ドライブの時は、機嫌よくホームに戻られている。飴などの嗜好品の買い物の希望には、可能な限りで対応支援されている。また、縁者の行事などへの参加支援も家族と連携して取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理について家族とホームの話合いで本人に伝え納得して頂いています。買物時は品物の選び方の指導や金銭の授受の支援をしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	身内に連絡が取れる様に公衆電話や事務所の電話を使用しての連絡も行っている。荷物が届いた時などは必ず送り主へ電話等を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下を挟み両側に居室となっている為、スタッフルームからは見守りが行き届きやすい。又、ソファを置いているのでそこで入居者様が集まり語らいもある。食堂兼居間は表に面している為明るい空間でもありテレビ視聴されたりゲーム等をされたり楽しい時間を過ごして頂く様にもなっている。	ハード面での施設的環境の間取りや配置である共用空間には、入居者の作品が装飾として取り入れられており、季節感や達成感、自信の回復などにも反映している。また、気になる臭いや騒音もなく穏やかな時が流れている一方、食堂兼居間の窓越しに近隣の様子も感知することができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた居住空間の中でソファの設置やテーブルの配置を変えるなどして工夫をしております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンスは備え付けであるがそれぞれ自宅から持参された家具でその方らしい部屋作りとなっています。足のふらつきなどある方もおられるので危険のない様配置も考えています。	居室に仲の良い入居者を招待し、唄を歌ったり、折鶴を折ったり昼食後の一時を楽しまれており、趣味や人柄、これまでの生活歴などが窺える居室作りを支援されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保を第一に考え手すりの設置や居室には、危険と思われる物は置かないようにしている。なるべく見守りを行いながら、手作りカレンダー等のような判りやすい物を置く様に工夫をしている。		